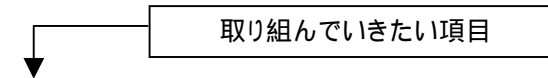


地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時よりつくりあげている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に唱えている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	日々の生活の中に地域への働きかけを意識した取り組みを継続。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物など、すでにホームを認知して頂き、親しいお付き合いである。(野菜や果物をよく貰う)		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	道路清掃、運動会、納涼祭、Xmas会など必ず地元の皆様に招待している。また、小・中学校との職場体験先として力を入れ取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>介護保険制度についての質問を受けつけており、これまで利用にあたっての解答をしている。又、認知症を患っている方を抱える家族への介護方法、援助方法などできる範囲での支援を行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>感染対応(処)については、詳細な指摘を受け、その後実践している。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>サービス内容には反映されるが、制度上の要望については、地域包括支援センター代表は(家族、地域)の意見を積極的に反映させる努力をされているか疑問である。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>役場(地域振興課、介護保険課、社協)には月に3回程度足を運んでいる。情報提供、情報収集に努めている。 (ex) ノロウィルス感染時・納涼祭開催の時</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>これまでに2名の利用者の成年後見人制度の活用に向け援助を行った。今後もこれらのケースが増えてくると予想されるため、制度の理解を深めていく。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>家庭では虐待が判明し、急きょ入所を受け入れたケースがある。認知症利用者は虐待を受ける場合が比較的多いため、家族介護で限界を感じているケースでは、早期に入所できるよう対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>トラブルの元となり易い入退所に関する条項、料金に関する条項は、理解できるまで詳細かつ文書を用いて説明している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期カンファレンス、サービス担当者会議、運営推進会議の他、日常の折にふれ、要望・苦情は取り上げ迅速に解決するための対応をはかっている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>緊急度に応じて、電話連絡、おたより、面会時の面談にてコンタクトを取り、安心して頂けるよう説明する。又、必要に応じ協力を仰ぐ場合も多い。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期カンファレンス、サービス担当者会議、運営推進会議の他、日常の折にふれ、要望・苦情は取り上げ迅速に解決するための対応をはかっている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期カンファレンス、サービス担当者会議、運営推進会議の他、日常の折にふれ、要望・苦情は取り上げ迅速に解決するための対応をはかっている。その他、施設長経営会議(1回/月)に於いても職員の管理・育成についての討議を行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入退所の際、入退院の際 通院を要する際はスタッフの態勢を万全に整え業務を推進している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>やむを得ない自己都合の場合を除き、退職者は減少している。入職前の適正を厳格に見極めるよう心がけている。 (平均 応募5名に対し、採用1名)</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後に3日間の実務研修を設け、適正を判断する。その後は、保険者、県主催或いは医療機関が主催する各講習、セミナーへの出席をすすめている。又、本年より自社に於いてホームヘルパー2級課程養成事業も行い教育に尽力している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のNPO法人たすけあいワーカーズのデイサービス訪問を年数回受けている。又、計画作成ケアマネージャー連絡協議会での出席を通じ、情報を収集しサービスに反映している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	疲労やストレスを蓄積しないよう十分な体制と的確な指示・バックアップ、また、報酬面も可能な限りベースアップできる様取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得への援助。定期昇給、賞与支給に明確に、適正に反映させる。(資格・実績) 定期勉強会を行い、疑問・不安を解消する取り組みを行っている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知度に応じて、アセスメントの段階でより広範囲の側面から情報を取り入れ、サービス提供に反映させている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み、見学時には特別時間をかけて聴く心掛けを行っている。家族の苦心・不安など沢山の内容が含まれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り、個々の最優先課題の解決から取り組むよう心掛けている。(医療分野では主治医等のサポートを必要とするため、主治医にも最優先とする本人・家族の意向は伝えている。)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得し馴染めるまで、何度でも見学・質問の問い合わせは実施している。必要に応じては短期(昼の数時間の滞在も可能である。)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活風景は常に「働きかけ」「呼びかけ」を実施し、可能な限り、職員の傍らで共に汗を流している。各々が家族の一員の様に暮らしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を施設と家族が各々の立場から支えている。ゆえに協力や参加を呼びかけることも多く、開設時よりも要望も増え、お互い対等の関係となってきた。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	介護負担を軽減された家族は、概ね入所後、本来の家族関係を取り戻せている。又、本人の率直な家族への要望も正直に伝え、解消できるよう働きかけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆、お正月、お彼岸、命日など積極的に一時帰宅や外出を推進している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	必要に応じ、お部屋を移動したり、席を移動したり、職員が仲介したりと関係構築には十分に観察をした上で配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>健康・医療的な要素で退所したケースでは、フォローアップや情報提供が必要であり、これまで数例あり、未だに連絡を必要とされている方もいる。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族の協力も仰ぎ、本人本位の生活ができる様、ニーズを把握し、提供に反映している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人・家族・相談員・ケアマネージャーなど、アセスメントには各分野からの情報収集につとめている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>34の解答に加え、入所後のカンファレンスではモニタリングを定期的に見直し、対応にあたっている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会時及び随時の電話連絡にて意見を聴取し、ケアプラン作成に反映させている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>対応不可能な案件や問題については、妥協点の折り合いを探し、又、専門性を有する機関への働きかけなどの調整対応を行い、ケアプランに反映させている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録のみならず、申し送り記録にも明記し、情報共有に努めている。サービス担当者会議を経てケアプランに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身体機能に応じたケア体制、経済的に困難な方々への支援(実費軽減対応)、老夫婦世帯への援助等々、ケースに応じた支援等。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	徘徊離棟の際への協力体制、火災・震災時の協力体制、演芸、趣味など文化的余暇づくり体制等築いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護、往診依頼等、他の専門領域に関しては随時利用するための支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度の利用、活用について度々協働し、解決をはかっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日の健康把握、服薬の適切確認、定期健診、緊急を要す処置等、かかりつけ医、家族、事業所とが密接に情報を交換、共有している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症の進行度の高い困難ケースに於いては、かかりつけ医の他、精神科の専門医への治療を受ける様支援している。(現在2名)</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>勤務している看護職、かかりつけ医の看護職などがホーム利用者全員の状態を詳細に把握しており、処置、服薬等細かく指示をしている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中に於いても、数日間隔で病棟へ出向き、相談員及び病棟スタッフへ容態の把握を努めている。又、退院許可が出た場合は速やかに戻れるよう対応している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時の受け入れの段階から急変時や終末期の対応の有り方は十分に説明をし、納得を頂いている。実際に終末期を迎え、看取りまで対応したケースもあり、主治医、訪問看護、ホームスタッフと密に連携をし、援助を行った。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ホームでの限界(できないこと)は明確に定義付けされており、その限界に到るまでの援助については、研修やセミナーにて実際に教育を受け、対応に向け準備を行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>最も多いケースとして、ホームから特養等の介護保険施設への転居がある。そのような際には極力事前準備を行い、本人と同伴して転居先への見学を必ず行い、ダメージ軽減を計るよう努めている。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時(採用後)研修に於いて、声かけ(接遇)マナーについても教育を行っている。言葉かけや情報管理は、利用者の存在価値に影響を及ぼすものであり、特に気をつけている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ニーズの把握の方法は、利用者の認知度を十分に考慮し、希望・要望をふまえ、サービス提供を行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の決まりや都合という概念は殆んど無いに等しい。「利用者のペースに合わせ」という決まりがある。その他51に同じ。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>パーマ、カラーリングは近くの美容院へ出向き、又、家人が同伴の際は、以前の馴染みのお店へ行くなどリクエストは様々である。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日の食事提供の風景は勿論のこと、行事、季節ごとの特別食についても終始</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医療的見解に立ち「厳禁」である場合を除き、家人のすすめがある方については、お酒もタバコも楽しめるよう援助している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄リズム、パターン、仕草などを把握し、最後までトイレに座り自力での排泄が可能となるよう毎日継続している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>日中に限らず、夕食前、就寝前での入浴が可能である。準備、介助等も利用者の要望に応じて柔軟に対処できるシステムである。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>睡眠のリズムも十人十色であり、「眠らなくてはならない。」や「起きなくてはいけない。」という制限のようなものは設けていない。夜であっても、昼であっても個々の特性を尊重している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>生活歴は時に重要視し、役割を発揮できる取り組みは多い。見違える程生き活きとした姿や仕草を披露され、大切にしている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買いものをする事は女性の方には楽しみとして大切である。駄菓子、漬物、洋服など、ご自身で所持した金銭でよく買い物に出かける。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候が悪くない限り、戸外へ極力出かけられるよう、業務上の制約や決まりは設けない様になっている。散歩、ドライブ、買い物などさまざまである。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>年に2回のバス旅行を実践している。その際にも希望を優先し、目的地を決定している。その他にも、家人同伴での宿泊旅行などは多いに推奨している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、TELの支援は家人の了承を頂き、積極的に行っている。文字を記すことが困難な方については、代筆や代弁の協力も度々行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間や人数を制限することなく、受け入れており、居室で手狭な場合には別室を提供し、遠慮なく時間を過ごせるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をこれまでもしておらず、これからもするつもりはない。拘束を行なう状況(必要とする)に陥ることがないように努力している。なおかつ拘束を回避できる方法も、その都度模索しているため。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関のみ必要に応じて施錠しているが、それ以外はいつでも外へ出られる環境を保っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼・夜間どの時間帯を摂っても、安否確認は当然のことであり、万一、離棟した場合であっても即座に発見できる対応は行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	十把一絡げの撤収や、撤去は行っていない。状況、状態をよく考慮し、必要かどうか判断し対処している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスク回避の学習会、緊急時の対応など定期的な勉強会を施行。又、実際に危険に遭遇しても、無事に対応し、上手に対応できている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	69に同じ。今後も6～12ヶ月に1度は、救命講習会は継続してゆく方針である。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会会員として、避難場所・避難方法は常々周知されている。避難経路についても、最短距離を迅速かつ安全に確保できるよう協力を頂いている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測できるリスクは前以って説明をし、その対応方法も充分にご理解頂けるよう説明している。身体的・精神的なリスクを先を見据えて検討する姿勢はいつも維持している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	72に同じ。発見の困難な医学的側面については、主治医より詳細なデータが情報提供に結びついている。早期対応として、主治医の協力は大変心強い。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される際には、効能のみならず、副作用や状態変化の予見まで説明を受けている。これまでも不適合による副作用があったが、即座に気づき、大事に至らずに対処できた。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便を促す方法(食事・運動・入浴・姿勢)など、薬に依存しない排泄方法を実践している。又、3日を超える便秘者には、申し送りにて注意が促されるよう指示されている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯・口腔内の清掃など、歯科医のサポートのもと指導を頂きながら、適切な支援を実践している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、制限量等、個々を管理できるシステムを構築しており、バランスが崩れたり、摂取量が満たされない際は別途対応を特別に行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	昨年はノロウイルスに相当程度苦心を強いられた為、感染症の対策については、地域保健福祉事務所、保健所に指導を承り、対応方法を実践している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒・殺菌については次亜塩素酸系の液体を用いて対処。食材についても徹底した管理と調理で、仕入先の業者との協同で万全の策を講じている。（賞味期限・調理方法のアドバイス）		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設らしからぬ外観とし、玄関ドアその他もより家庭に近いものを用いている。近隣の老若男女気軽に立ち寄って下さっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV、音楽の音量、照明の明るさ、臭気、換気など環境の配慮には、四季それぞれに応じて、適切な環境下を維持できる取り組みを行っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りを好む方には、静かで集中できる場所を確保、集団あるいは気の合う者同士が集う際には広いスペースを確保するという柔軟なスペースづくりを実践している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に揃えて頂く周辺調度品は、使い慣れた物品をそのまま運び入れるよう家族へお願いしている。殆んどの利用者は自宅で使用したものをここでも使い続けている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	81に同じ。夏・冬期の冷暖房管理についても、体調に注意し、調節を怠らない。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室廻り、トイレ、浴室など全ての箇所に於いて、「使い易さと安全性」を第一の目的として、設計を行った。利用者や家族からも高い評価を得ている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「役割づくり」「残存能力への働きかけ」例え混乱や失敗をしたとしても、繰り返し働きかけ、自立して暮らせるよう働きかけている。又、紛らわしさや混乱し易いものは使用しない配慮も怠らない。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇・畑・テラスなどいつも利用できるよう管理されている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

活動性に富み、かつ柔軟性を有したGホームであり、医療依存の高い利用者についても、主治医を中心として多方面からのサポートを頂ける体制を築いている。他の介護施設に於いて困難ケースとして提供拒否を受けた方々が当ホームでは普通に、より自然に生活を送ることが出来ている。(精神障害、経管栄養、在宅酸素、人工透析、インシュリン皮下注射 e t c )  
開設して、2年半が経とうとしているが、着実にサービスが向上し、地域や介護事業者からの評価は上がってきている。